

うちな-ぐちみぐ い あらす する
 沖縄口巡てぬ言-争いぬ広がい

しよ-わじゅ-ぐ にんそ-ち
 昭和 1 5 (1940) 年 正月 ぬまんぐる (1)

2008 年 4 月

沖縄語研究家 船津好明

「民芸」ぬっ人ぬ ちゅ ちや- うちな- むぬし ちや- うちな-ぐちみぐ
 ぬ言- 争いぬ 始またしえ-、 昭和 1 4 (1939) 年 4 月 やたし
 が、うんに-ね-世ぬ 中んかえ- 広がらんたん。世ぬ 中んかい 広
 がたしえ-、 翌年 昭和 1 5 (1940) 年 ぬ 正月 からやん。

しよ-わじゅ-ぐ にんそ-ちしちにちえ な はし こ-かいど-
 昭和 1 5 (1940) 年 正月 7 日 - 那覇市公会堂 をて、
 おきなわかんこ-きよ-かい きよ-どきよ-かい な ちよ-ど うちな-たび
 沖縄観光協会と 郷土協会 ぬまじゅん成て、丁度 沖縄旅そ-
 たる 柳宗悦(宗悦) 達迎-てぬ 集まい 催 ちゃん。宗悦 達ぬ 旅
 -、 うちな- く ンかし たてむん ち-ち ン- ち
 やいっし、大和んかい 帰てから 広く 世ぬ 中んかい 知らする 為や
 たん。集まい ンかえ- 県庁 から - 山内隆 - 警察部 長 達 が 出
 じたん。学務部 ぬっ人ぬ 達 や 出じらんたん。集まい ぬ 様子- な
 - ちゃ (8 日) ぬ 新聞 ンかい 載たん。

わ りゅ-きゅ-しんぼ- おきなわにっぼ- ゆ おきなわあさひ しんぶの
 我んね- 琉球新報と 沖縄日報 や 読ど-しが、沖縄朝日新聞
 -、 見- あたらんくと 読で- 居らん。

か ン- いるいる はなし うほ- みんなげ- ちゅ
 書ちえ- し見じ-ね-、色々な 話ぬ 多くあしが、民芸ぬっ人

ぬ^{ちゃー}達^{けん}と^{ちゅ}県^{ちゃー}ぬ^{たげ}っ^{どーたーかんげ}人^いぬ^は達^はが、互^いに^は胴^い達^は考^い言^は一^は張^はと^は一^はと^はく
るぬあん。景色^{ちーち}ぬ^{くど}事^いん^いあ^{あらす}しが、一^{くど}番^{くど}ぬ^{くど}言^{くど}一^{くど}争^{くど}え^{くど}一^{くど}言^{くど}葉^{くど}ぬ^{くど}事^{くど}や^{くど}た^{くど}
ん。言^{くど}葉^{くど}ん^{かか}かい^{かか}係^{かか}わ^{かか}と^{かか}一^{かか}る^{かか}な^{かか}一^{かか}銘^{かか}々^{かか}ぬ^{かか}言^{かか}一^{かか}分^{かか}一^{かか}下^{かか}ぬ^{かか}如^{かか}一^{かか}ん。

り^{りゅーきゅーしんぼー}琉^{そーちち}球^{そーちち}新^{そーちち}報^{そーちち}(^{そーちち}正^{そーちち}月^{そーちち}8^{そーちち}日^{そーちち})^{そーちち}題^{そーちち}ぬ^{そーちち}四^{そーちち}ち^{そーちち}あ^{そーちち}ん。^{そーちち}言^{そーちち}葉^{そーちち}ん^{そーちち}かい^{そーちち}係^{そーちち}わ^{そーちち}と^{そーちち}一^{そーちち}
る^{そーちち}題^{そーちち}や^{そーちち}無^{そーちち}一^{そーちち}ん。^{そーちち}言^{そーちち}ち^{そーちち}や^{そーちち}る^{そーちち}番^{そーちち}さ^{そーちち}一^{そーちち}に^{そーちち}、

し^{しき}ば^{りゅーざぶるー}り^{りゅーざぶるー}場^{りゅーざぶるー}隆^{りゅーざぶるー}三^{りゅーざぶるー}郎^{りゅーざぶるー}(^{りゅーざぶるー}民^{りゅーざぶるー}芸^{りゅーざぶるー})^{りゅーざぶるー}や^{りゅーざぶるー}「^{りゅーざぶるー}大^{りゅーざぶるー}和^{りゅーざぶるー}口^{りゅーざぶるー}広^{りゅーざぶるー}み^{りゅーざぶるー}一^{りゅーざぶるー}し^{りゅーざぶるー}強^{りゅーざぶるー}々^{りゅーざぶるー}く^{りゅーざぶるー}そ^{りゅーざぶるー}一^{りゅーざぶるー}る^{りゅーざぶるー}如^{りゅーざぶるー}一^{りゅーざぶるー}
しが、我^わん^わね^わ一^わ沖^{うちなーぐちえ}縄^{うちなーぐちえ}口^{まむ}一^{まむ}守^{まむ}い^{まむ}び^{まむ}ち^{まむ}一^{まむ}や^{まむ}ん^{まむ}で^{まむ}思^{まむ}ゆ^{まむ}ん。」^{まむ}で^{まむ}言^{まむ}ち^{まむ}、
う^{うちなーぐちえ}ち^{うちなーぐちえ}な^{うちなーぐちえ}無^{うちなーぐちえ}一^{うちなーぐちえ}ん^{うちなーぐちえ}為^{うちなーぐちえ}す^{うちなーぐちえ}し^{うちなーぐちえ}え^{うちなーぐちえ}一^{うちなーぐちえ}合^{がっごの}点^{がっごの}一^{がっごの}さ^{がっごの}ん^{がっごの}た^{がっごの}ん。^{がっごの}う^ちり^ち聞^ちち^ち、

や^{やまうちりゅーいち}ま^{やまうちりゅーいち}内^{やまうちりゅーいち}隆^{やまうちりゅーいち}一^{やまうちりゅーいち}(^{やまうちりゅーいち}県^{やまうちりゅーいち})^{やまうちりゅーいち}や^{やまうちりゅーいち}「^{やまうちりゅーいち}島^{しま}ぬ^{しま}言^{くど}葉^{くど}一^{くど}、^{くど}大^{やまと}和^{やまと}や^{やまと}れ^{やまと}一^{やまと}何^{まー}処^{まむ}を^{まむ}て^{まむ}ん^{まむ}守^{まむ}ゆ^{まむ}
る^{くど}事^{くど}ん^{くど}解^{わか}ゆ^{わか}しが、^{くど}沖^{うちなー}縄^{しゅーじーちか}や^{しゅーじーちか}平^{くど}生^{くど}使^{くど}ゆ^{くど}る^{くど}言^{くど}葉^{くど}ど^{くど}っ^{くど}し^{くど}ぬ^{くど}大^{やまと}和^{やまと}口^{やまと}一^{やまと}広^{しゅる}
ま^{まて}一^{まて}居^{まて}ら^{まて}ん^{まて}く^{まて}ど^{まて}、^{まて}県^{けん}ぬ^{けん}大^{けん}切^{けん}な^{けん}政^{てーしち}治^{しーじ}ど^{しーじ}っ^{しーじ}し^{しーじ}大^{やまと}和^{やまと}口^{やまと}使^{やまと}ゆ^{やまと}し^{やまと}勤^{しし}み^{しし}と^{しし}
一^{しし}ん。」^{しし}で^{しし}言^{しし}ち^{しし}や^{しし}ん。^{しし}く^{しし}り^{しし}聞^{しし}ち^{しし}、

や^{やなぎそーえつ}な^{やなぎそーえつ}ぎ^{やなぎそーえつ}そ^{やなぎそーえつ}一^{やなぎそーえつ}え^{やなぎそーえつ}つ^{やなぎそーえつ}み^{やなぎそーえつ}ん^{やなぎそーえつ}げ^{やなぎそーえつ}一^{やなぎそーえつ}民^{やなぎそーえつ}芸^{やなぎそーえつ})^{やなぎそーえつ}や^{やなぎそーえつ}「^{やなぎそーえつ}大^{やまと}和^{やまと}口^{やまと}使^{がっごん}ゆ^{がっごん}し^{がっごん}え^{がっごん}一^{がっごん}合^{がっごん}点^{がっごん}す^{がっごん}し^{がっごん}が^{がっごん}、^{がっごん}琉^{るーちゅー}球^{くど}ぬ^{くど}言^{くど}
ば^ば一^ば押^うし^う退^ぬき^ぬら^ぬん^ぬて^ぬん^ぬ濟^しむ^しん。」^しん^しで^し「^し守^{まむ}ゆ^{まむ}し^{まむ}”^{まむ}強^{まむ}く^{まむ}言^{まむ}ち^{まむ}や^{まむ}ん。
う^う終^うわ^うい^うに^う、

し^{しちや}こ^{こーしん}一^{けん}し^{けん}ん^{けん}け^{けん}ん^{けん}(^{けん}県^{けん})^{けん}や^{けん}「^{けん}大^{やまと}和^{やまと}口^{やまと}広^{ちわ}み^{ちわ}一^{ちわ}る^{ちわ}際^{ちわ}ね^{ちわ}一^{ちわ}、^{ちわ}沖^{うちなー}縄^ゆぬ^{なか}世^{しし}ぬ^{しし}中^{しし}ぬ^{しし}進^{しし}
み^{よー}様^ゆぬ^ゆ、^ゆ余^ゆ所^ゆぬ^ゆ県^{けん}に^{けん}比^{くら}び^{くら}て^{くら}ち^{くら}ぢ^{くら}成^なと^な一^なく^など^な、^な柳^{やなぎ}さん^{やなぎ}が^{やなぎ}言^いみ^いし^いえ^い
一^いる^い事^{くど}ん^{かんげ}考^{かんげ}一^{かんげ}や^{かんげ}一^{かんげ}に^{かんげ}、^{かんげ}気^ち張^ばて^い行^いち^い欲^いさん。」^いで^い言^いち^い、^いど^いじ^いみ^いた^いん。

お^{おきな}きな^なわ^なに^なつ^なぽ^な一^なそ^{そーちち}一^{そーちち}ち^{そーちち}は^{そーちち}ち^{そーちち}に^{そーちち}ち^{そーちち}
沖^{そーちち}縄^{そーちち}日^{そーちち}報^{そーちち}(^{そーちち}正^{そーちち}月^{そーちち}8^{そーちち}日^{そーちち})^{そーちち}題^{そーちち}ぬ^{そーちち}六^{そーちち}ち^{そーちち}あ^{そーちち}ん。^{そーちち}う^{そーちち}ぬ^{そーちち}中^{なーか}ん^{なーか}かい^{なーか}「^{なーか}墓^{はか}と^{しま}島^{しま}

ぬ言葉守り」んでしが一ちあん。言ちやる番さーに、

みずさわすみお みんげー やまどぐちふる ぐと じんる ぐと
水澤澄夫(民芸)や「大和口広みとーる如ーしが、遠慮ーさん如
言ーねー、行ち過じえーあらに。」んで。くり聞ち、

やまうちりゆーいち けん しま ぐとばまむ し けん
山内隆一(県)や「島ぬ言葉守ゆしえー済むしが、県どっし
えー誰んかいん解ゆる言葉どっし、大和口使ゆる如強々く勧
みとーん。くれー趣味とー別に、また、暮らしぬ習ー守ゆる肝合
どん別に、県ぬ政治ぬまぎさる目当て成とーくと、余所ぬっ人ぬ
ちやーぬーい やまどぐちえ かな ちか かんげ
達が何言ちん、大和口ー必じ使らする考ーやん。」んで。く
り聞ち、

やなぎそーえつ みんげー やまどぐちちか し か
柳宗悦(民芸)や「大和口使ゆしえー済むしが、うぬ代わいに
るーちゆー ぐとば うぬ な やまど たび わか
琉球ぬ言葉ー押し退きてー成らん。大和あまくま旅さーに解た
る事やしが、沖縄ぬさく大和口上手に使とーる所ー無ーん。
あおもり いわて ぐと ぞくろ しんしー しーど しま ぐとば ちか
青森、岩手ぬ如ーる所をてー、先生ん生徒ん島ぬ言葉使とー
ん。やくと大和口使らする為なかい、島ぬ言葉ー使らさんでる
かんげ む ま い
考ーや持たんしえー益し。」んで言ちやん。

おきなわあさひ しんぶん そーちちち
沖縄朝日新聞(正月8日) かめーとーしが見ー当たらんくと、
か 書ちえーしえー解らん。

ぬー ぐと ち わ うむ しんぶん ゆ か
上ぬ事に付ーて、我ーが思とーしえー、新聞に依ていふなー変

わとーる^{くど}事やん。くぬ^{くど}事ー^あ当たい^{めー}前やしが、いふ^{ちむ}ー^が肝掛かいそ
ーし^あ挙ぎーねー、

やまうち^{りゅう}ー^{いち}けん ^{おきな}わに^{つぼ}ー
山内隆ー(県)や^{うちな}沖繩^{ぐちむ}日報^しをてー「沖繩口守ゆしえー^し濟むん」

な^{りゅう}とーん。琉^{きゅう}球^{しんぼ}新報^かぬ書^よち様とー^か変わとーん。

けんが^{くむ}ぶ^ぶ 県学務部、^{ゆし}だ^しえんたー^{あち} 吉田嗣延達やくぬ^{あち}集^あまいんかえー^ん出^んじらんたしが、

じ^{じょ}ー^し事情^{わか}や直^{わか}く解^{わか}かて、^{みんげ}あんし^{ちゅ}民^{ちゅ}芸^{ちゅ}ぬっ^{ちゅ}人^{ちゅ}ぬ^{ちゅ}達^{ちゅ}言^{ちゅ}ー^い分^{ぶん}聞^{ちゅ}ちやー^いに

したた^かわ^わじて、^ほー^{げん}ろ^んそー^そ 方言論争^そやあ^そったに^そ広^{ひろ}が^{ひろ}て^{ひろ}行^いち^いゅん。

うちな-ぐちみぐ い あらす ぶいる
 沖縄口巡ていぬ言-争いぬ広がい

しよ-わじゅ-ぐ にんそ-ぐわち
 昭和 1 5 (1940)年正月ぬまんぐる(1)

2008 年 4 月

沖縄語研究家 船津好明

「^{みんげー}民芸」ぬ^{ちゅ}つ^{ちゃー}人ぬ^{うちな-}達^{むぬし}とう^{ちゃー}沖縄ぬ^{ぶいる}物知りぬ^{うちな-ぐちみぐ}達^{ぶいる}とうぬ、沖縄口巡

ていぬ^い言^{あらす}-争^{はじ}いぬ^{しよ-わじゅ-ゆ}始^{にんしんぐわち}またしえ-、昭和 1 4 (1939)年 4 月や

たしが、うんに-ね-世ぬ^ゆ中^{なか}んかえ-^{ぶいる}広^ゆがらんたん。世ぬ^ゆ中^{なか}ん

かい^{ぶいる}広^{ゆくどうししよ-わじゅ-ぐ}がたしえ-、翌年^{にん}昭和 1 5 (1940)年ぬ^{そ-ぐわち}正月からや

ん。

しよ-わじゅ-ぐ にんそ-ぐわちしちにちえ なはしこ-かいどー
 昭和 1 5 (1940)年正月 7 日-那覇市公会堂をうてい、

おきなわかんこ-きょ-かい きょ-どきょ-かい な ちよ-どうちな-
 沖縄観光協会とう郷土協会ぬまじゅん成てい、丁度沖縄

たび^{やなぎむねよし}旅そ-たる^{そ-えつ}柳宗悦(宗悦)達^{た-んけ}迎-ていぬ^{あち}集^{むゆ-}まい^{そ-えつ}催^{そ-えつ}ちゃん。宗悦

た-たべ^{うちな-}達旅-、^く沖縄ぬ^{んかし}暮らし、^{たていむん}昔^{ち-ち}からある^{ん-}建物、^{ん-}景色んで-見^{ん-}ちや

い^ち聞^{やまと}ちやいっし、^{け-}大和ん^{ぶいる}かい^ゆ帰^なていから^し広^しく^し世ぬ^し中^しん^しかい^し知ら

する^{たみ}為^{あち}やたん。集^{けんちよ-}まい^{やまうちりゆ-いちけ-さつぶ}んかえ-^ぶ県^ぶ庁^ぶから-山^ぶ内^ぶ隆^ぶ-警^ぶ察^ぶ部^ぶ

ちよ-た-^ん長^{がくむぶ}達^{ちゅ}が^{ちゃ-}出^んじたん。学^{あち}務^{あち}部^{あち}ぬ^{あち}つ^{あち}人^{あち}ぬ^{あち}達^{あち}や^{あち}出^{あち}じ^{あち}らんたん。集^{あち}まい

よ-しえ^{はちにち}ぬ^{しんぶぬ}様子-^ぬな-^ぬちや(8日)ぬ^ぬ新^ぬ聞^ぬん^ぬかい^ぬ載^ぬたん。

わ^{りゆ-きゆ-しんぼ-}我^{おきなわにっぽ-}んね-^ゆ琉^{おきなわあさひしん}球^{しん}新^{しん}報^{しん}とう^{しん}沖縄^{しん}日^{しん}報^{しん}や^{しん}読^{しん}ど-^{しん}しが、^{しん}沖縄^{しん}朝^{しん}日^{しん}新^{しん}

ぶ^ゆの^{をう}聞^{をう}-、^ゆ見^{をう}-^ゆ当^{をう}たらん^{をう}く^{をう}とう^{をう}読^{をう}で-^{をう}居^{をう}らん。

とうじみたん。

おきなわにつばー そーぐわちはちにち でー むー なーか はか
沖縄日報(正月8日) 題ぬ六ちあん。うぬ中んかい「墓と

しま くとう ばまむ ていー い ばん
う島ぬ言葉守り」んでいしがーちあん。言ちやる番さーに、

みずさわすみ お (みんげー) や「やまとぅぐちふいる ぐと いんる
水澤澄夫(民芸)や「大和口広みとーる如ーしが、遠慮ーさ

ぐとうい い し ち
ん如言ーねー、行ち過じえーあらに。」んでい。くり聞ち、

やまうちりゆーいち けん しま くとう ばまむ し けん
山内隆一(県)や「島ぬ言葉守ゆしえー済むしが、県とうつ

しえー誰んかいん解ゆる言葉とうっし、やまとぅぐちちか ぐとうちゅー
しえー誰んかいん解ゆる言葉とうっし、大和口使ゆる如強

ぢゅー しし すーみ びち く なれ まむ
々く勸みとーん。くれー趣味とー別に、また、暮らしぬ習ー守

ちむえー びち けん しーじ み あ な
ゆる肝合とうん別に、県ぬ政治ぬまぎさる自当てい成とーくと

ゆ す ちゅ ちゃー ぬーい やまとぅぐちえ かな ちか かんげ
う、余所ぬつ人ぬ達が何言ちん、大和口ー必じ使らする考

ーやん。」んでい。くり聞ち、

やなぎそーえつ (みんげー) や「やまとぅぐちちか し か
柳宗悦(民芸)や「大和口使ゆしえー済むしが、うぬ代わい

るーちゅー くとうば う ぬ な やまとう たび
に琉球ぬ言葉ー押し退きてー成らん。大和あまくま旅さーに

わか くとう うちなー やまとぅぐちしょーじ ちか とうくる ね
解たる事やししが、沖縄ぬさく大和口上手に使とーる所ー無

ーん。あおもり いわて ぐと とうくる しんしー しーとう しま くとう
ーん。青森、岩手ぬ如ーる所をうてー、先生ん生徒ん島ぬ言

ばちか やまとぅぐちちか たみ しま くとうば ちか
葉使とーん。やくとう大和口使らする為なかい、島ぬ言葉ー使

らさんでいるかんげ む ま い
らさんでいる考ーや持たんしえー益し。」んでい言ちやん。

おきなわあさひ しんぶん そーぐわちはちにち み あ
沖縄朝日新聞(正月8日) かめーとーしが見ーあたらんくと

か わか
う、書ちえーしえー解らん。

ういー くとう ち わ うむ しんぶん ゆ
上 ぬ 事 に付ーてい我ーが思とーしえー、新聞に依ていいふ
いなー かわとーる 事 やん。くぬ事ー 当たたい前やしが、いふえー
ちむが
肝掛かいそーし 挙ぎーねー、

やまうちりゅーいち けん おきなわにつぼー うちなーぐちまむ し
山内隆ー(県)や沖繩日報をうてー「沖繩口守ゆしえー 済むん」
な とーん。 りゅうーきゅーしんぼー か よー か
成とーん。琉球新報ぬ書ち様とー変わとーん。

けんがくむぶ ゆしだ しえんたー あち へん
県学務部、吉田嗣延達やくぬ集まいんかえー出じらんたしが、
じじょー し わか みんげー ちゅ ちゃーい ぶんち
事情や直ぐ解かてい、あんし民芸ぬっ人ぬ達言ー分聞ちゃー
にしたたかわじてい、ほうげんろんそー ぶいる い
にしたたかわじてい、方言論争やあつたに広がてい行ちゅん。

沖縄文字一覧と用例

<p>と [tu] とい(鳥)、うと(音)、みーと(夫婦)</p>	<p>ゝ [hwe] ゝー(南)、にゝーでーびる(有難うございます)</p>
<p>と [to] とーふ(豆腐)、とーばる(桃園)</p>	<p>へ [he] へい(おい「目下への呼びかけ」)</p>
<p>ど [du] どし(友人)、やど(宿)、どー(自分)</p>	<p>や [ʔja]* やー(君、お前)、やん(言わない)</p>
<p>ど [do] どーぐ(道具)、まんどーん(たくさんある)</p>	<p>や [ʔja] やー(家)、やん(である)</p>
<p>てい [ti] てーち(一つ)、てーだ(太陽)、てん(空)</p> <p>て [te] てーく(太鼓)、てーしち(大切)</p>	<p>てい [ʔju]* ていん(言う)</p> <p>ゆ [ʔju] ゆんたく(おしゃべり)</p>
<p>てい [di] ふてい(筆)、ぬーてい(喉)、ていきやー(秀才)</p> <p>で [de] でーじ(大変なこと)、ちよーでー(兄弟)</p>	<p>てい [ʔjo]* ていーいー(おさな子)</p> <p>よ [ʔjo] よーんなー(ゆっくり)</p>
<p>か [kwa] かじ(風)、かんない(雷)、かーま(遠方)</p>	<p>わ [ʔwa]* わー(豚)、わーちち(天気)</p> <p>わ [ʔwa] わーむん(私のもの)</p>
<p>が [gwa] にんがん(念願)、がんく(頑固)</p> <p>が [ga] がんちょー(眼鏡、めがね)、しがた(姿)</p>	<p>あ [ʔwi]* あー(上)、あーりきさん(面白い)</p> <p>あ [ʔwi] あきが(男)、あなく(女)</p>

く [kwi] くー (声)、さつくー (咳)、 ぐゆん (呉れる)	ぎん [ʔwe] * ぎんーきー (金持ち)、ぎん ちゆ (ねずみ)
き [ki] きー (木)、きゆん (蹴る)、 きぶし (煙)	ぎ [ʔwe] ういぎー (お祝)、わじゃぎ ー (災い)
ぐ [gwi] ぐーく (越来「地名」)	ん [ʔN] * んみ (梅)、んに (稲)、 んなじ (うなぎ)
ぎ [gi] かーぎ (容ぼう)	ん [ʔN] んに (胸)、んみ (嶺井「地 名」)、 んなど (港)
ぐ [kwe] ぐー (鍬)、からじぐー (髪 きり虫)	い [ʔi] * ぎん (縁)、いだ (枝)
け [ke] けー (かゆ)、ちけー (使者)	い [ʔi] いん (犬)、いーび (指)、 いちゆん (行く)
ぐ [gwe] ぐったい (ぬかるみ)	を [ʔu] * をど (夫)、をーじ (さと うきび)
げ [ge] げー (害)、にげー (願い)	う [ʔu] うど (音)、うーび (帯)
ぐ [hwa] ぐー (葉)、なーぐ (那覇)	え [ʔe] * えーま (八重山)、えーじ (八重洲)
は [ha] はる (畑)、はぎもー (荒地)	え [ʔe] えーさち (あいさつ)、え ーじ (合図)
ぐ [hwi] ぐーじゃい (左)、ぐーど (い るか)	お [ʔo] おーじ (扇)、おーさん (青 い)
ひ [hi] ひやみかすん (えい、と 言う)	を [ʔo] をーじ (王子)、をーれー (往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 ぞい (鳥)、×ぞい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。

方言論争の広がり

昭和 15 (1940) 年 1 月の頃 (1)

2008 年 4 月

沖縄語研究家 船津好明

民芸同人と沖縄の識者の間の、いわゆる方言論争が始まったのは昭和 14 (1939) 年 4 月だが、社会的には広がらなかった。社会問題となって広がったのは、翌昭和 15 (1940) 年 1 月からである。

昭和 15 (1940) 年 1 月 7 日、那覇市公会堂で、沖縄観光協会と郷土協会の主催により、来県した柳宗悦ら日本民芸協会同人一行と県側関係者の座談会が開かれた。宗悦一行の旅行は、沖縄県の生活状況や伝統文化や風光を見聞し、帰って全国に紹介するのが目的であった。県の行政部門からは山内隆一警察部長らが出席したが、学務部の出席はない。座談会の様子は翌 8 日の新聞に掲載された。

私は琉球新報と沖縄日報は読んだが、沖縄朝日新聞は見当たらず、読んでいない。

記事は多様な内容だが、宗悦らと山内らの間で対立的議論が交わされた部分がある。風致問題でも対立したが、一番の論争は沖縄の言葉の問題であった。各人の言語関係の発言要旨は下の通りである。

琉球新報(1 月 8 日) 見出しが 4 本あるが言語に触れたものはない。

記事中の発言順に、

式場隆三郎(民芸)は「標準語の問題がやかましい様であるが、私は(方言を)保存すべきだと思ふ。」と“方言廃止に反対”した。これに対して、

山内隆一(県)は「方言は日本全国どこへ行つても保存することも必要であるが、本県は標準語が一般的な言葉として徹底してゐないので、県の方方針として奨励してゐる。」と述べ、これに対して、

柳宗悦(民芸)は「標準語を使ふのは反対ではないが琉球の言葉をおろそかにする必要はない。」と“保存を強調”した。終わりに、

志喜屋孝信(県)は「標準語問題に関し沖縄は文化的レベルが他県に比べおとつてゐるから柳氏の趣旨にも副ひつつ努力する積りである。」と座談会を閉めた。

沖縄日報(1 月 8 日) 見出しが 6 本あるが、その中の一本に「墓地と方言の保存」というのがある。記事中の発言順に、

水澤澄夫(民芸)は「標準語奨励してゐるようだが忌憚なく言えば行き過ぎではないか」と。これに対して、

山内隆一（県）は「こちらの方言を保存するといふ事に別に反対ではないが、一般に通用する言葉として県としては徹底的に標準語の励行をやっている。これは趣味や文化的な意味合ひとは別に県の大方針で外部の人が何といはれても標準語は徹底的に励行させる主義である」と。これに対して、

柳宗悦（民芸）は「標準語を使ふことに反対ではないが、それがために琉球の言葉をおろそかにしてはならない、各地を旅してみて知っているがこの県ぐらい標準語をうまくこなす処はない。青森や岩手の如きは先生も生徒も地方語を使ってゐる。つまり標準語を奨励するの余り、地方語をおろそかにする気風があつてはいけないと思ふ」と述べた。

沖縄朝日新聞（1月8日） 紙面を探しているが見当たらず、確認できない。

以上について私の感想は、新聞によって少しずつ違っていることである。当然のことだが、やや気になる差異を挙げれば、

山内隆一（県）は沖縄日報で「沖縄語の保存に反対ではない」旨となっていて、琉球新報の記事と違っている。

県学務部、吉田嗣延らは座談会には出席しなかったが、直ちに知るところとなり、そして民芸側の言い分に憤慨し、方言論争は一気に拡大することになる。

〒1870002

東京都小平市花小金井 2-6-1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp